

令和7年度 梅病害虫防除基準

ながのブロック

散布時期 散布日	IRAC FRAC コード	散布薬剤・調合法	使用時期 収穫前	10a当り 散布量	発生病害虫	主な作業と注意事項
1 休眠期 2月下旬 ~ 3月上旬 月 日	M2	水 展着剤 (マイリノー) 88ℓ 5ml	発芽前まで	250ℓ 以上	縮葉病 (黒星病) (カイガラムシ類) (ハダニ類)	○消毒後はホース・機械の水抜きをしっかりと行い、凍結防止に努める。
特別散布 開花直前 3月中旬 ~下旬 月 日		石灰硫黃合剤 12ℓ			かいよう病	○かいよう病の発生園では必ず散布する。
2 落花直後 (80%落花期) 4月上旬 月 日	M1	水 展着剤 (マイリノー) 98ℓ 5ml	—	350ℓ	かいよう病	○かいよう病の発生園では必ず散布する。
4 M7 41		I Cボルドー66D 2kg			黒星病 かいよう病 灰色かび病 (灰星病) アブラムシ類	○防除が遅れると黒星病の感染が始まるので防除時期を厳守する。 ○灰色かび病は開花中あるいは開花後の枯死した花その各器官に感染するので防除時期を遅れないようにする。 ○灰色かび病の発生園ではロブラー水和剤1,000倍(100g・45日前まで)を加用散布する。
3 展葉初期 前回より 10日以内 4月中旬 ~下旬 月 日	11 3 1	水 展着剤 (マイリノー) 100ℓ 5ml	7日前まで 前日まで 21日前まで	500ℓ 以上	黒星病 (変葉病) (かいよう病) (灰星病) アブラムシ類 ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ (ケムシ類)	○変葉病の発生園では被害枝、被害葉を摘み取り土中に埋める。 ○黒星病の重要防除時期なので前回との散布間隔を開かないようにする。 ○アブラムシの多い園ではウララDF2,000倍(50g・7日前まで)を加用散布する。 ○カイガラムシの発生が多い場合は5月上旬までにアプロードフロアブル1,000倍(100ml・7日前まで)の特別散布を実施する。 <u>その際、収穫前日数に注意する。</u>
4 前回より 14日以内 5月上旬 ~中旬 月 日		水 展着剤 (マイリノー) 100ℓ 5ml			黒星病 (灰色かび病) (すす斑病) アブラムシ類	
4 M2		モスピラン顆粒水溶剤 50g コロナフロアブル 200ml			(シンクイムシ類) (ケムシ類) (アメリカシロヒトリ)	
5 (中大梅) 6月上旬 ~中旬 月 日	M2 3	水 展着剤 (マイリノー) 100ℓ 5ml	— 前日まで	500ℓ 以上	黒星病 シンクイムシ類 (アブラムシ類) (カムシ類)	○干し梅用完熟梅はカムシ、ゾウムシ、シンクイムシの被害にあうと商品性がなくなるので防除を徹底する。 ○カイガラムシの発生園では梅収穫後(7月中~下旬頃)④ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g・21日前まで)を散布する。 ○アーデントフロアブルに替えて、アディオン水和剤2,000倍(50g・前日まで)を使用しても良い。
6 9月中旬 ~下旬 月 日		コロナフロアブル 200ml アーデントフロアブル 50ml				
7 12月 カイガラムシ 発生園 月 日	28	水 100ℓ フェニックスフロアブル 500ml	開花期まで	200ℓ 以上	コスカシバ	○コスカシバの産卵部位である地上1m以下の主幹、主枝を丁寧に散布する。 ○フェニックスフロアブルに替えてスミチオン乳剤1,000倍(100ml・14日前まで)を使用しても良い。
	—	水 98ℓ スプレーオイル 2ℓ	発芽前	250ℓ 以上	カイガラムシ類	○カイガラムシの発生園では必ず散布する。 ○コスカシバの秋期防除として④ラビキラー乳剤200倍(500ml)を12月の落葉後~3月発芽前に散布する。(石灰硫黃合剤と混用しない)